

富山県 新湊圏域 総合水産基盤整備事業計画

1. 圏域の概要

(1) 水産業の概要

① 圏域内に位置する市町村および漁業協同組合の概要

射水市新湊地区は、県西部に位置し、古くから漁業の町として栄え、漁業者を始め水産加工業者、小売・卸売業者が多く、水産関連産業は地域の基幹産業のひとつとして地域経済を支え、雇用の場の創出等、地域の発展に大きく寄与している。

1市（射水市）、1漁協（新湊漁業協同組合）となっている。

② 主要漁業種類、主要魚種の生産量、資源量の状況

- ・主要漁業種類：定置網漁業、底曳網漁業、かご漁業
- ・主要魚種の生産量：いわし類 1,496 トン、いか類 766 トン、えび類 234 トン、あじ類 186 トン、ぶり類 130 トン、かに類 105 トン

③ 水産物の流通・加工の状況

- ・新湊漁港において陸揚げされた水産物は、産地市場である新湊漁協地方卸売市場から仲買人を経由し、県内外へと出荷される。新湊漁協地方卸売市場は、取扱量が年間約 4,082 トン(2位)、取扱金額が年間約 15 億円（2位）の市場規模である。また、県のほぼ中心に位置し、道路網が発達して交通の便が良い。

④ 養殖業の状況

本圏域においては、堀岡養殖漁協が、陸上施設及び区画漁業権漁場において、サクラマス海面養殖を行っている。

養殖されたサクラマスは、射水サクラマス市場化推進協議会により「いみずサクラマス」としてブランド化されている。また、新湊漁協の区画漁業漁場において、小規模ながらコンブの養殖も行われており、春に収穫されたものは「春告げコンブ」として地元を中心に流通している。

⑤ 漁業経営体、漁業就業者（組合員等）の状況

○新湊漁業協同組合（R2）

- ・組合員数 正組合員：221 准組合員：152 計：373
- ・県内全体の組合員数の約 7%を占めている。

・近年の組合員数は減少している。

⑥ 水産業の発展のための取組

・富山県産のベニズワイのブランド化を推進し、県外産との差別化を図るため、平成29年6月に「高志の紅ガニ」として商標登録された。

⑦ 水産基盤整備に関する課題

近年、新湊漁協がリース事業を活用して老朽化した定置網漁船の更新、大型化を計画的に進めており、漁船の大型化に伴い、漁港内の係留スペースが不足するため、今後、岸壁新設や物揚場の拡張整備が必要になる。

また、既存の防波堤や岸壁について、施設の老朽化により補修や更新が必要な施設が増加していることから、予防保全による施設の長寿命化を図るとともに更新コストの平準化やコスト縮減が課題である。

⑧ 将来的な漁港機能の集約化

現時点でなし。

(2) 圏域設定の考え方

① 圏域タイプ	流通拠点型	設定理由；産地市場を有する流通拠点漁港である新湊漁港へ水産物を集約し、消費地や加工場へ出荷している。
② 圏域範囲	射水市	設定理由；流通拠点漁港である新湊漁港を中心として水産物が流通している。
③ 流通拠点漁港	新湊漁港	設定理由； ・産地市場を有し、属地陸揚量は約4,000 t、属地陸揚げ額は約15億円。 ・高度衛生管理（L2）に対応するため、荷捌所の改築、防暑施設の整備などのハード対策を完了している。 ・機能強化事業による耐震耐波対策を実施し、災害発生後も圏域内の生産・流通の拠点として機能を早期に回復させるための施設の機能強化を行う（R2年度BCP策定済み）。 ・災害時の漁港利用者の避難対策の

		検討を予定している。
④ 生産拠点漁港	該当なし	設定理由；
⑤ 輸出拠点漁港	該当なし	設定理由；

(令和2年)

圏域の属地陸揚量(トン)	4,044	圏域の登録漁船隻数(隻)	114
圏域の総漁港数	1	圏域内での輸出取扱量(トン)	不明
圏域で水産物の水揚実績がある港湾数	0		

当該圏域を含む養殖生産拠点地域名	該当なし
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における主要対象魚種	
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別生産量(収穫量)(トン)	
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別海面養殖業産出額(百万円)	

2. 圏域における水産基盤整備の基本方針

(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

① 拠点漁港等の生産・流通機能の強化

本圏域における産地間競争力の強化を図り、消費者に安全・安心な水産物を供給するため、流通拠点漁港である新湊漁港では、これまで荷捌所の改築、清浄海水取水施設や製氷施設の整備を行っており、水産物の衛生管理と鮮度保持の向上を図っている。また、漁港施設については、主要な陸揚岸壁の耐震耐波対策による機能強化を概ね完了しており、今後は、地元水産業の更なる成長に向け、漁業者の漁業活動の省力化や軽労化を目的とした安全対策向上施設や就労環境改善施設の整備を推進し、水産物の生産流通コストの縮減を図り、生産量の増大と新たな販路拡大を目指す。また流通の衛生管理に係る記録の維持管理を行う体制を構築する。

新湊漁協と射水市、射水CATV(株)、NTT西日本(株)は、NTTドコモ北陸支社の協力を得て、新湊沖2kmの定置網2箇所にICTブイを設置し、漁業従事者が陸上から海況情報(海水温、流向、流速、風向、風速)の計測データをスマホやタブレットで確認し、スマートICTを活用した効率的な操業や出漁判断を行う実証実験を行っている。(実施期間：R3.11月～(1年間))

近年、新湊漁協では水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業(リース事業)を活

用して老朽化した定置網漁船の更新、大型化を進めており、漁船の大型化に伴い係留スペースが不足し、岸壁新設が必要になるため、東地区では泊地の一部を埋立て、新たな岸壁を新設し、大型漁船の竣工に間に合うよう停泊バースの整備を計画的に推進する。

②養殖生産拠点の形成

本圏域における養殖生産拠点の形成は予定されていない。

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

①環境変化に適応した漁場生産力の強化

・海洋環境の変化等により、藻場の部分的な衰退がみられる海域において、藻場の保全活動を行っており、水産多面的機能発揮対策事業を活用し、射水市豊かな海を愛する会が行っているアマモの移植や食害生物の除去の活動について支援していく。

・県水産研究所では、貧植生海域における藻場造成の実証研究として、海藻種苗を付着させたロープを移植し、海藻が成長し卵や胞子を放出して周辺に海藻を増やす取り組みを行っている。また、モニタリングについては5年毎に、湾内の藻場の調査（種類、現存量、面積等）を実施し、藻場の生育状況を確認している。

②災害リスクへの対応力強化

本圏域内の各拠点漁港では、「富山県設計津波に関する連絡調整会議」や「県防災会議地震対策部会」によるシュミレーション調査による検討において、東日本大震災のような海溝型地震による甚大な被害をもたらす津波は想定されていないが、活断層地震による津波が想定されており、地震動や津波に備え、被災後の地域の漁業活動や水産流通が早期に再開できるよう地震・津波対策に取り組んでいる。

また、富山県湾特有の冬季風浪による「寄り回り波」による高波被害への対応が必要であり、H20の入善高波災害の後に県内全域で見直しした設計沖波による漁港の主要な防波堤等の耐震・耐津波・耐波浪対策（嵩上げ、拡幅等）を推進する。

(3) 「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

①「海業」による漁村の活性化

新湊漁港に隣接する「新湊きつときと市場」では白エビやズワイガニなどの水産物の直販施設や海鮮レストラン「きつときと亭」では旬の食材による海鮮料理を提供して、観光客を集約する交流拠点となっており、交流人口の拡大による観光振興と地域の活性化により、地元雇用の創出と漁業者の所得向上を図っている。

また、射水市では毎年秋に、漁港内で「カニかに海鮮白エビまつり」のイベント

を開催し、その日に水揚げされたベニズワイガニや白エビ、海産物の直販やカニ鍋や白エビのから揚げの料理を提供する地元の水産物のPR活動を行っており、観光振興と地域の活性化により、漁業者の所得向上を図る。

新湊漁協では冷凍保存施設を整備する計画があり、白エビやホタルイカを高鮮度のまま保存し、水揚げの少ない時に販売することで単価を底支えし、漁期を通じて魚価の安定と向上を図る。また、白エビの加工施設を整備してエコラベルのCoC認証を取得し、大手販売店からの需要増加により漁業者の所得向上を図る。

②地域の水産業を支える多様な人材の活躍

新湊漁港には新湊漁協の女性組合員で運営する「女性部食堂」があり、地元で水揚げされた魚介類を使った海鮮料理を提供し、地域の交流拠点としてPRし、魅力を発信している。また、新湊漁協では市内15校の小学校6年生の学校給食にベニズワイガニを提供する「カニ一人一杯給食」や高校生や大学生を対象にした魚の捌き方教室を開催している。

漁港施設の老朽化により補修や更新が必要な施設が増加していることから、予防保全による施設の長寿命化と漁業者の就労環境の改善を図るため、防波堤等の機能保全工事を実施する。また、漁港の衛生管理の高度化と安全対策のため、物揚場に防鳥ネットを設置して、カラスやカモメ等の鳥害から漁獲物の品質低下を防ぎ、魚価の向上と就労環境の改善を図る。

3. 目標達成のための具体的な施策

(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

①拠点漁港等の生産・流通機能の強化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
該当なし					

・「富山県漁港環境衛生管理指針」に基づく対策（主としてソフト対策）に取り組む。

②養殖生産拠点の形成

現状では、本計画期間内での各圏域における養殖生産拠点の形成は困難である。まずは、現行の小規模養殖や新たな養殖への取り組みを推進することで、将来的な大規模養殖の可能性を模索していく必要がある。

地区名	主要対策	事業名	漁港・漁場名	種別	流通拠点
該当なし					

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

① 環境変化に適応した漁場生産力の強化

地区名	主要対策	事業名
新湊	藻場・干潟	水産多面的

・海洋環境の変化等により、藻場の部分的な衰退がみられる海域において、藻場の保全に係る水産多面的機能発揮対策事業によるソフト対策としてアマモの移植、食害生物の除去及びモニタリングを行う。

② 災害リスクへの対応力強化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
新湊	安全安心	機能強化	新湊漁港	3	○
新湊	予防保全	機能保全	新湊漁港	3	○

・機能強化学業により地震や高波に対する安全確保のため、防波堤補強の防災・減災対策を行うとともに、機能保全事業により老朽化した防波堤や岸壁の補修、泊地浚渫を計画的に行い、漁港施設の長寿命化を図る。

(3) 「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

① 「海業」による漁村の活性化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
該当なし					

② 地域の水産業を支える多様な人材の活躍

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
該当なし					

4. 環境への配慮事項

- ・防波堤等の機能強化や機能保全工事、水域の浚渫においては、工事で発生する汚濁が沿岸の漁業に影響を及ぼさないよう、汚濁防止対策や実施時期を調整する。
- ・岸壁の照明灯のLED化を図り、維持管理費の削減による省エネ対策を推進する。

5. 水産物流通圏域図

別添「富山県 水産物流通圏域図」参照

富山県 水産物流通圏域図

